

# 「中山間地域の郷」 テーマに勉強会

コンサル協九州支部

(社)建設コンサルタンツ協会九州支部の九州郷づくり共助ネットワーク研究会(共助研)は8月31日、福岡市の八重洲博多ビルで「中山間地域の郷づくり、我々ができること」のテーマで勉強会を開いた。

熊本学園大学の小川全夫教授が「中山間地域政策の動向」と題して基調講演。今年3月に6年間延長された時限立法、改正過疎地域自立促進特別措置法のポイントや、様々な過疎地の実

例、有効な支援方法を説明した。集落協定を結び、農林水産省の中山間地域等直接支払制度の適用を受けた実例も紹介。住民自らが暮らす場

## コンサルの知恵を

### 過疎対策で意見交換

方、合併後も過疎ときちんと向き合っている自治体もある」と述べた上で、山口県では、集落の4世帯がそれぞれ子どもに戻ってくるよう呼びかけ、計8世帯で

実現する方策をも示した。意見交換会が行われた。「ヨーロッパは山間部の保護に先制的と聞いているが実情は？」との問いに「ア

ルプス周辺の農地は、観光資源でもある景観を保つ役割が必要。また、今回の特



過疎対策の実例などを勉強

別措置法はソフト事業が認められているので、地域交通の維持を過疎地域計画に盛り込むところも多い。山形県川西町では、交通手段の充足だけでは町民生活を支え切れないと、町の機能集約を盛り込んだ地域計画づくりに着手した。目先の問題の解消だけでなく、先々にまで気配りが必要なケースも多い。コンサルタンの経験が生かせる場もあるはず」と答えた。

(塚田)